

4. エテホン液剤の立木全面散布は「清水白桃」の熟期を促進させる

[要約]

モモ「清水白桃」の収穫開始予定33～23日前（袋かけ前）に、エテホン液剤4,000倍液を立木全面散布すると果実品質に影響がなく、成熟を2～5日促進させる効果が認められる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先]電話086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

近年、収穫前の異常高温によるモモの成熟遅延による熟期のズレ、一気熟れ、果肉障害などが問題となっており、「清水白桃」では、成熟前に35℃以上の温度に長期間遭遇することにより、エチレン生成が抑制され、成熟が遅延することが明らかとなっている。そこで、「白鳳」で熟期促進効果が認められているエテホン液剤の散布が「清水白桃」の成熟に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 収穫開始予定33～23日前（袋かけ前）に、エテホン液剤（商品名：エスレル10）4,000倍液を果実に直接かかるように立木全面散布すると、無処理に比べて熟期が促進する（図1、表1）。収穫開始から終わりまでの収穫日数（収穫期間）には差がなく、一気熟れなどはみられない。
2. 処理果実は無処理の果実と比べて、果実品質に大差なく、日持ち性に差はない（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. エテホン液剤は、熟期促進を目的に「白鳳」の満開後70～80日に4,000倍液でのみ登録がある。
2. 「清水白桃」での結果であるが、「あかつき」及び「川中島白桃」でも同様の効果が認められ、これらの3品種は平成28年度中に適用拡大される見込みである。
3. 本剤の使用に際しては、注意事項を確認して用いる。散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。樹勢の弱い樹や幼木では使用を避けること、周辺作物へドリフトしないように留意する。
4. 「清水白桃」の収穫が遅くなると予測される場合、「おかやま夢白桃」との収穫ピークが重なるのを避ける目的や、成熟遅延による生理障害を抑制する目的などで使用する。
5. 本剤は、2016年12月14日に「清水白桃」（満開後80～90日）、「あかつき」（満開後75～85日）、「川中島白桃」（満開後90～100日）に農薬登録が適用拡大された（2017年3月15日追記）。

[具体的データ]

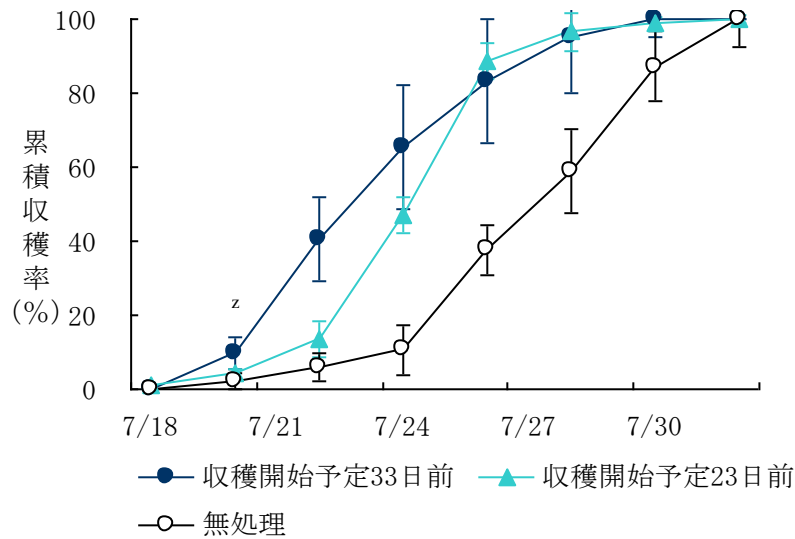


図1 エテホン液剤の立木全面散布時期の違いが「清水白桃」の累積収穫率に及ぼす影響（2014年）
^zバーは標準誤差

表1 エテホン液剤の立木全面散布時期の違いが「清水白桃」の平均収穫日及び果実諸形質に及ぼす影響（2013～2015年）

処理区	平均収穫日 (月/日)	日数差 (無処理比)	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果実硬度 ^y (kgf)	果皮着色 ^x (0～4)	渋み ^x (0～4)
収穫開始予定33日前	7/24	-2.7	301	13.2	1.0	1.1	0.4
収穫開始予定23日前	7/24	-2.1	293	13.0	1.0	1.1	0.3
無処理	7/26		302	13.1	0.9	1.0	0.3
有意性 ^z	-		ns	ns	ns	ns	ns

^z TukeyのHSD検定により、nsは有意差なし。平均収穫日は年次変動が大きいため検定せず

^y 果実硬度は常温で3日間保存した後に測定した

^x 果皮着色及び渋みは（0：無～4：多）の5段階で評価した

[その他]

研究課題名：西日本のモモ生産安定のための果肉障害対策技術の開発
 予算区分：農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業、受託（植調）
 研究期間：2013～2015年度
 研究担当者：樋野友之、藤井雄一郎、荒木有朋
 関連情報等：平成23年度試験研究主要成果、[21-22](#)